

経営者のための学校情報

太陽 ASG 拝啓理事長先生

第 215 号 この資料は全部お読みいただいて 2 分 00 秒です。

今回のテーマ： トイレのおはなし

2011年11月、文部科学省から『トイレ発！明るく元気な学校づくり！！ - 学校トイレ改善の取組事例集 -』が公表されました。今回はいつもと少し趣を変え、学校のトイレのお話です。

学校のトイレは5K

どこの学校にもトイレにまつわる怪談話があるかと思いますが、これは子どもたちの「怖い・近づきたくない」という心理の現れだそうです。住環境の変化に伴い、家庭や公共トイレが清潔で明るいものになっている中、改修の遅れている学校のトイレは「汚い・臭い・暗い・怖い・壊れている」の「5K」といわれているそうです。「和式だから使えない」「からかわれる」「汚いから近づきたくない」といった理由からトイレを我慢し、身体に不調をきたす児童が増えているというニュースもありました。また学年が上がるにつれ、近づきたくない場所＝人気がない場所となり、破壊行為やいじめなど、問題行動の温床となってしまうケースも見逃せません。

トイレは学校選びのポイントになり得る！？

上記は主に公立の小中学校の事例であり、施設設備の充実した私立学校では実感がないかもしれませんが、一方でオープンキャンパス等でのアンケート結果や、インターネットの受験応援サイト等で「この学校に行きたくない理由」として「トイレが汚い」というのが挙げられている事実もあります。また、ある進学塾のブログには「学校説明会参加時には食堂とトイレは必ずチェックすること」と記載されていました。学校施設の中でも毎日数回必ず訪れるトイレは、設備の新旧や清潔さなど、保護者の関心も高くなります。実際に、保護者から「和式トイレしかない」とクレームを受けたという話や、特に女子校・大学などは、たとえ掃除が行き届いたきれいなトイレであっても、擬音装置や温水洗浄便座がっていないことで不満が寄せられるという話も聞きます。

「選ばれる学校」として教学面の充実は絶対ですが、トイレの充実も魅力のひとつになるようです。

改修費用の問題

校舎の耐震化、IT関連の更新などに押され、特に修繕の必要がない場合にはトイレの改修までには予算が回らないというのが実態ではないでしょうか。

しかし、例えば節水型トイレを導入することにより大幅に水道代が削減できるため、その後のランニングコストを含めて考えると、必ずしも高い買い物になるとは限らないというデータがあります。

また、このような「省エネ事業」に対しては補助金を受けられる場合があります。例えば東京都では「私立学校省エネ設備等導入モデル事業補助」として、東京都地球温暖化防止活動推進センターが実施する「省エネ診断」を受け、提案された改善内容を踏まえた省エネ設備・機器の導入には、その事業費の一部について補助が受けられます。

『事例集』には、安価な改修方法も提案されています。費用面を理由に諦めてしまう前に、検討してみる価値はあるかもしれません。

「5K」からの脱却が良い方向へ波及し、学校全体が明るく画期的になったというコメントもありました。よりよい学校づくりの一端として、一度「学校のトイレ問題」を考えてみてはいかがでしょうか。

お見逃しなく！

東日本大震災を通じて、災害時における学校のトイレの役割が再認識されました。私立学校も公共性の観点から、地域社会で担う役割について熟考し、日ごろから準備をしておく必要があります。